

現状の焼却ごみの分析値を見ると、紙類が 30～40%、水分が 35～55%程度含まれており合計で 50%を超す。これらを減らせば、ゴミの減量化は推進できる。紙類割合を減らすと低位発熱量は減少するので、同時に水分を減らして低位発熱量を増加させる施策を実施する必要がある。尚、焼却炉形式にもよるが、低位発熱量は 1000kcal/kg 程度まで自然可能とのことである。

紙類の減量には分別回収の推進が良い。勿論家庭系資源ごみの分別回収の推進と同時に進める必要がある。

しかし家庭で分別回収を推進して行く場合に、ごみ袋に入れて出すごみは 3 種類、資源ごみは 5 種類、他に新聞紙がある。資源ごみは毎週 1 回、新聞紙は毎月 1 回（業者回収）であり家庭内の保管場所の確保が難しい場合があり、資源ごみが燃やすごみとして出されている可能性があるのではないか。

この対策を考えていく必要がある。

またごみ水分の低減には厨芥水分の低減が重要である。

塵芥水分の減少方法としては、天日干し、手で絞る等もあるが、流し台での水切り器の普及促進等の施策（無料配布等）が必要と考える。

以上